

## 9 - 5 八代海周辺の地震の震源再決定

### Re-location of the earthquakes in and around the Yatsushiro Sea

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

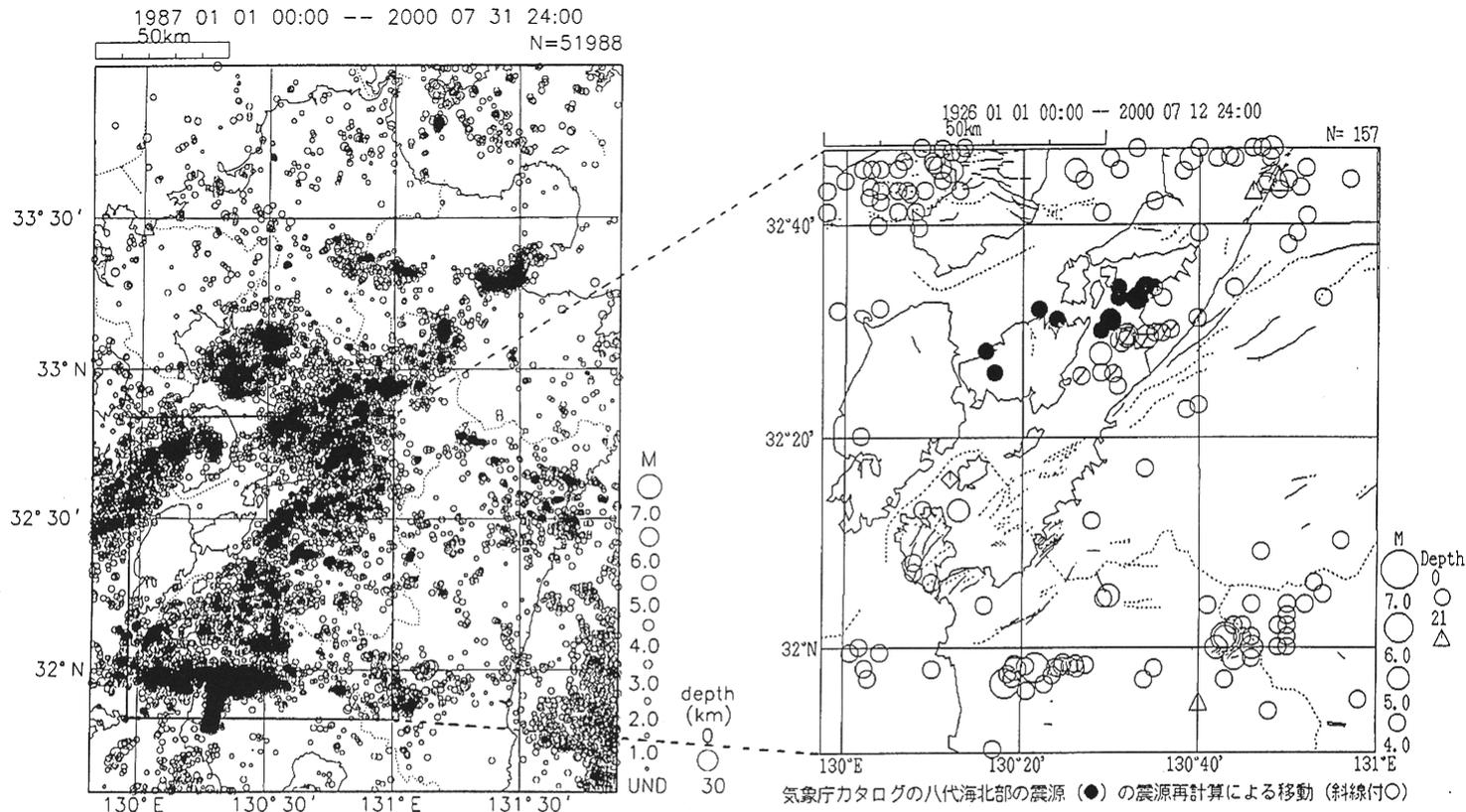
九州内陸においては、雲仙・別府地溝帯に沿った地震活動や、南南西に伸びる布田川・日奈久断層帯周辺の地震活動、1997年からの鹿児島県北西部の地震活動など、地震活動が活発である。気象庁の地震カタログによると、1987年以來の八代海周辺の地震活動は、天草諸島で地震活動のレベルが低いことが分かる。同様に気象庁カタログから、1926年以來の同領域の地震活動を見ると、M4～M5クラスの地震活動がある(図の)。これらの地震は、いずれも1930年～1940年代の地震であり、時刻精度などが現在とは異なり、各観測点のデータを一様に扱うには無理がある。そこで、気象庁で通常処理している方法とは、若干異なった方法で、震源決定し直したので、それを報告する。

震源再決定手法は、濱田(1985)によるを用いた。時刻精度の悪い観測点を、P・S波の位相の読みとりの不正確さを考慮し、観測点によってはS-P時間を用いること、P・S波の位相の読みとり値を取捨選択することなどを行った。

震源を再決定した結果、天草諸島に分布していた地震は、現在、地震活動が活発な熊本県の沿岸の領域のもの(図の斜線付の)であると思われる。したがって、天草諸島の活動レベルが低い領域は、従来からも地震活動のレベルが低いものと推定される。気象庁カタログの地震とそれに対応する再決定した地震の発震時刻、緯度・経度、深さとMを示す。

#### 参 考 文 献

濱田 信生:日本列島の内陸部に発生した被害地震に伴う地震活動の再調査とその地震学的意義,気象研究所研究報告,38(1987)77-156



1931/12/21 14:47	32° 31. 0' 130° 30. 0'	10km	M5. 5→1931/12/21 14:47:11. 7 32° 29. 4' 130° 34. 1' 0km	M5. 4
1931/12/22 17:36	32° 30. 0' 130° 29. 0'	20km	M4. 1→1931/12/22 17:36:49. 7 32° 25. 9' 130° 30. 3' 9km	M4. 0
1931/12/22 22:08	32° 34. 0' 130° 34. 0'	0km	M5. 6→1931/12/22 22:07:54. 3 32° 29. 1' 130° 31. 2' 10. 6km	M5. 6
1931/12/26 10:43	32° 33. 0' 130° 33. 0'	10km	M5. 9→1931/12/26 10:42:53. 3 32° 29. 5' 130° 31. 9' 16. 7km	M5. 8
1931/12/29 11:50	32° 31. 0' 130° 24. 0'	20km	M4. 7→1931/12/29 11:49:59. 8 32° 29. 1' 130° 31. 9' 12km	M4. 4
1936/01/19 02:23	32° 30. 0' 130° 29. 0'	20km	M4. 1→1936/01/19 02:22:52. 0 32° 25. 7' 130° 26. 8' 5km	M4. 2
1936/05/24 20:08	32° 26. 0' 130° 17. 0'	20km	M4. 6→1936/05/24 20:08:17. 9 32° 29. 7' 130° 35. 1' km	M4. 2
1941/10/25 07:40	32° 32. 0' 130° 22. 0'	10km	M4. 3→1941/10/25 07:40:21. 5 32° 30. 1' 130° 36. 8' 16km	M4. 3
1944/07/09 12:46	32° 33. 0' 130° 31. 0'	10km	M4. 2→1944/07/09 12:46:49. 0 32° 29. 8' 130° 35. 9' 0km	M4. 2
1949/08/23 04:01	32° 34. 0' 130° 31. 0'	20km	M4. 8→1949/08/23 04:01:12. 7 32° 31. 1' 130° 39. 8' 0km	M4. 9

第1図 1987年からの震央分布と1926年からの震央分布（再決定震源を含む）および、再決定された地震の震源リスト

Fig.1 Epicentral distribution since 1987 (left) and epicentral distribution since 1926 including the re-located earthquakes (right), and list of re-located earthquakes.